

人とのかかわりを大切にする心を育む授業実践

～ 体験学習を工夫することを通して ～

技術・家庭（家庭分野） 第2学年
白山市立北星中学校・教諭

1 事例の概要

日々生徒達は、友達関係を形成したり、調整したりすることに多くのエネルギーを費やしている。この背景には、家族の形態の変化や価値観の多様化が進む一方で、家族のかかわりや地域のつながりが希薄化し、人とのかかわりを学ぶ機会や実体験が不足している現状があると考えられる。

また、少子化の影響からか、本校で実施したアンケート（2年生で実施）によると、身近に幼児がいる生徒の割合は31%、幼児に関心がない生徒は57%、さらに幼児に対してマイナスのイメージをもっている生徒が53%という結果であった。

そこで、本題材「わたしたちの成長と家族」では、子ども（自分）が成長する過程に触れさせること（幼児の擬似体験、遊び体験、保育体験学習などの体験学習の工夫）を通して、幼児や自分の成長に関心をもたせ、家族や周りの人々の存在や人とのかかわりの大切さを実感させたいと考えた。さらに、そのかかわりの中で支えられながら生きている自分自身を、かけがえのない存在としていとおしく感じる心（人間関係形成能力の基礎である自己肯定感）を育てることを目指して実践を行った。

2 実践内容

(1) 題材の目標

- ・自分の成長を振り返り、自分の成長や生活は、家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気づく。
- ・幼児の観察や擬似体験、遊び体験を通して、幼児の心身の発達や幼児の遊びの意義について理解できる。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 問題解決的な学習の導入

- ・自分の成長をふり振り返り、幼児の心身の発達に関心をもたせるような体験を工夫し、幼児の発達や遊びについて自分なりの課題を見つけられるような学習の導入。

② 実践的・体験的な学習活動の導入

- ・自分の成長や、家族やそれにかかわる人々について考えさせるためのビデオ視聴。
- ・自分の幼い頃や幼児に関心をもたせるためのすごろくゲーム。
- ・幼児の心身の発達を理解させるための幼児の擬似体験・幼児観察・遊び体験。
- ・幼児の心身の発達を支える家族の役割を理解するためのロールプレイング。

③ 学習意欲を高める工夫

- ・自分の成長を実感できる写真、赤ちゃん人形、衣服、おもちゃなどの実物の提示。

④ 技術の定着を図る工夫

- ・意見交流の機会を大切にするための班活動や発表の場の設定。

⑤ 評価の工夫

- ・評価の観点の明確化。
- ・自己評価やグループ活動の中での相互評価の活用。

3 指導の実際

時間	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
(分) 10	<ul style="list-style-type: none"> ・前時をふり返る。 ・学習の記録に学習内容を記入する。 ・本時の学習内容を知る。 「幼児の発達の特徴を知ろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が描いた絵、紙芝居などを見せながら、自分の幼児期を思い出させ、幼児への関心を高めさせる。 	
30	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">体験</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">幼児の発達の特徴を知ろう (キッズ体験)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験コーナーを決める。(各班ごとにくじ引きをする。) ・キッズ体験をする。(3分) <ul style="list-style-type: none"> ◇運動機能コーナー ◇体重コーナー ◇ウォッチングコーナー ◇ことばコーナー ◇幼児のからだコーナー 身長、手形、足形 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して、幼児の体の発達について考えることを確認させる。 ・体験マップで体験内容を確認させる。 ・一人ひとりが体験できるように、体験コーナーには年齢や発達段階が分かる資料や実物を複数準備しておく。 	評価場面 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">キッズ体験に取り組みわかったことを発表する場面</div>

C-1 指導案

C-2 ワークシート

C-3 ワークシート (キッズ体験マップ)

4 成果と課題

(1) 成果

事後のアンケートより幼児に関心があると答えた生徒が77%、自分は家族に支えられて成長してきたことを実感できた生徒が91%に増加した。このことから、授業を通して、幼児や自分の成長、それを支えてくれた家族、周囲の人々とのかかわりに関心をもたせ、その大切さに気づかせることができたことを確認できた。また、保育体験学習において、新しい発見があったと答えた生徒の割合が、69%と予想に反して少なかったことは、事前に幼児の擬似体験をしたことによって、関心の無かった幼児が身近な存在となったことを表しているように思われる。さらに、保護者から学習したことを家庭で楽しそうに話していたことを聞き、家庭へとこの学習が広がったことも確認することができた。

(2) 課題

実体験の乏しい生徒達が増える傾向の中、この題材の学習の成果は、人間関係形成能力の基礎となり、人とかかわるあらゆる場面で応用されていく力となるものである。そのため、生徒のプライバシーに十分配慮しながら、家族関係や周囲の人々とのかかわり方を生徒自身が工夫し、自分の実生活に生かせるような指導法の研究を今後も継続していく必要がある。また、生徒の自己評価を生かした指導など、生徒の学習意欲を高めるための支援の方法についてもまだまだ不十分な所が多く、今後検討改善していきたい。